

景観まちづくり市民会議委員がオススメ

私のとおきおきの「下田まち遺産」

下田小学校校歌

<紹介者>

下田景観まちづくり市民会議会長 田中 豊 さん（現下田商工会議所会頭）

私が提案させて頂いた下田まち遺産のひとつに、下田小学校校歌がある。下田まち遺産認定の市民会議のメンバーに下田小学校出身の方が私以外いなかったせいか、この歌詞を知らない人が多かった。

出だしは、「米使ペリーの来航に鎖国の扉開かれて」であり、私が好きなのは、2番の出だしの「愛の正長、技の蓮杖、学の東里を育くみて」の部分である。

「愛の正長」は、第2代下田奉行を務めた今村伝四郎正長公であり、津波を防ぐために私財をも投げ出し、現存する武方浜の防波堤を築いた人物である。また、下田の街並みの基礎を築いた偉人であり、下田の恩人である。その行いから、「愛の」と形容されていると解釈している。

「技の蓮杖」は、来年没後100年を迎えるが、西の上野彦馬と同じく東の下岡蓮杖として、日本に写真技術を広めた人物として名高い。下田の下、岡方村の岡、そしてハスの杖を受用していたこともあり、下岡蓮杖と名乗っていたようである。本来は、狩野派の画家であり、写真そのものに傾倒した年月は短いものの、多くの弟子を育て上げた。多分、下田にも多くの作品が残されていると思われる。現在、下田商工会議所において、蓮杖の歴史と作品の洗出作業をしている。また、写真をテーマに観光に多少なりとも貢献できるようにしたいと試行錯誤している。

「学の東里」は、中根東里といい、あまり知られていないが儒学者である。下田生まれであり、享保頃の江戸文人の間では、「詩文においては中根にかなうものはおらぬ」と言うのが常識であったようで、天才であるが、金銭への執着はまるでなかったようである。

校歌には、全国どこで歌っても通用するような歌詞が多いように思うが、これだけ下田の特徴を出し、しかも人物に的を当てている歌詞はそうそうないと思う。下田の誇りのひとつである。

下田まち遺産制度への思い

下田まち遺産は、下田市景観まちづくり条例のなかに位置付けられている。全国をみてもかなり稀な条例であると思う。景観に関係する方からも「完成度が高い」と言われているようで、うれしい限りである。その思いは、下田の人々に「下田の良さ」を共有してもらいたい、下田に誇りを持ってもらいたいということである。そのため、一見すると景観とは関係のないことも含まれている。未来永劫にわたり、この制度が大切にされていくことを望む。また、私自身も初めて知ることが多い。現在、130程認定されているが、今後も私にとっての新たな「下田」が発見されることを楽しみにしている。

下田小学校校歌（昭和二年）

一、米使ペリーの来航に
鎖国の扉開かれて
曙光まばゆく海外に
名も知られたる
我が下田

二、愛の正長技の蓮杖
学の東里を育くみて
永久に輝くいさおしの
ほまれも高き我が下田

三、南に広き下田港
平和の海にこぎいでて
文化の幸を求めんと
学ぶ我等の意気高し

四、北にそびゆる下田富士
希望の峰を仰ぎつつ
不朽の塔を築かんと
集う我等の意気高し



写真は旧下田小学校（現在の下田市民文化会館）

下田まち遺産を皆さんと共に未来へ

「下田まち遺産」とは下田の人たちが昔から大切にしてきたものの、これから新たに大切にしていきたいもののことです。

美しい砂浜や歴史的な景観、伝統や人の営みによって育まれる地域文化などは、まさに「下田まち遺産」です。これは時代が変わっても人の心に残り続ける下田の誇りとなります。下田を象徴する歴史や文化などは、私たちや次の世代の財産でもあります。私たちはこの歴史や文化を様々な分野の人たちと協力し、保全・活用しながら次の世代に引き継いで行かなければなりません。これらを未来に活かすためにも、私たちの力を合わせる必要があります。どうか、皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

「下田まち遺産」は市内外の方々から提案された事例を市民の代表者が集まる「景観まちづくり市民会議」で審議し、意見を集約した上で、下田まち遺産ギャラリー等を開催、最終的にはアンケートによる「市民の声」をもとに、下田市が決定しています。（前回おこなった下田まち遺産ギャラリーでのアンケート回収数254件）

現在、認定された「下田まち遺産」は130事例。今後も認定された数だけ増えていきます。認定された中でも、「下田登録まち遺産」は維持・保全のために助成制度もご用意しております。

下田まち遺産ニュース その1

「不法看板」撤去しました。

この夏、下田市では、景観を著しく害しており所有者に無断で設置された不法看板を200枚ほど撤去しました。ご自分の建物や塀・柵などに無断で設置された看板については、景観のためにも撤去をお願いします。



写真は市内田牛地区にあった違法看板。



違法看板撤去後の写真。

下田まち遺産ニュース その2

「白浜三番叟」3年ぶりに奉納されました。

由緒ある白濱神社に奉納される三番叟は、残念ながら演者不足の問題等により、ここ2年間休止となっていました。市の文化財にも指定されており、下田まち遺産にふさわしいとの声が数多く寄せられていたものの、これまで継続審議（保留）としてきました。しかし、平成24年10月29日に三番叟が演じられたことに敬意を称し、今後、下田まち遺産に認定させて頂きたいと考えております。



下田まち遺産ニュース その3

「コンビニエンスストア」も景観配慮に協力。

今年の8月、マイマイ通りに株式会社ローソンが下田まいまい通り店をオープンしました。当初の計画では、イメージカラーの青色を基調とした電飾看板にアイボリー色の外壁といった趣で、店舗としての規模も小さく、景観への配慮義務はありませんでした。

しかし、マイマイ通りは街路樹や街路灯が整備されたメインストリートであること、毎年8月には下田太鼓祭りが開催されるなど市民の皆様にとっても愛されていることなどから、下田市と下田市景観まちづくり審議会は、ローソンに景観への配慮をお願いしたところ、黒色を基調とした看板、漆喰をイメージした白色の外壁、さらにボールサインも可能な限り下げなど、景観への配慮に積極的に取り組んでいただきました。



下田市と下田市景観まちづくり審議会からローソン関係者へ景観配慮を依頼。

景観配慮のポイント紹介

街に溶け込む景観配慮



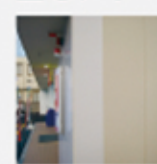
計画案ではローソン店舗で使用するコーポレートカラーを配した電飾看板であったが、景観配慮後は黒壁に箱文字をのせた形状に変更されました。

ボールサインの高さを配慮



通常10メートルほどの高さに設定されるサイン看板は、歩行者の目線の高さに設定。また、色彩も暗くし、歩行者に配慮しています。

壁をタイルから白壁に

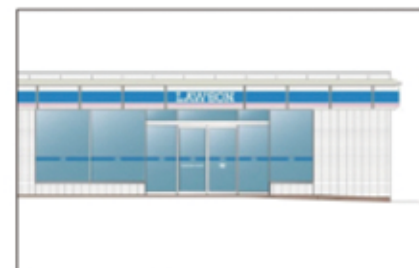


通常アイボリーのタイル調で仕上げられる外壁は、周辺の景観に溶け込むように、漆喰を思わせる白色に塗装されました。

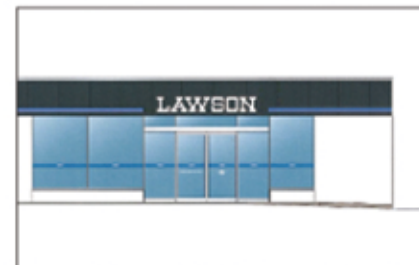
カーブミラーの色を茶色に



街路樹が並ぶマイマイ通りの景観に配慮し、通常黄色のカーブミラーの本体を茶色に塗装。ボールサインも同様に塗装しています。



当初の計画案。（画像は立面図の一部）



景観配慮後の計画案。（画像は立面図の一部）